

# アルフレッド・ノーベル(Alfred Bernhard Nobel)

1833年10月21日 - 1896年12月10日

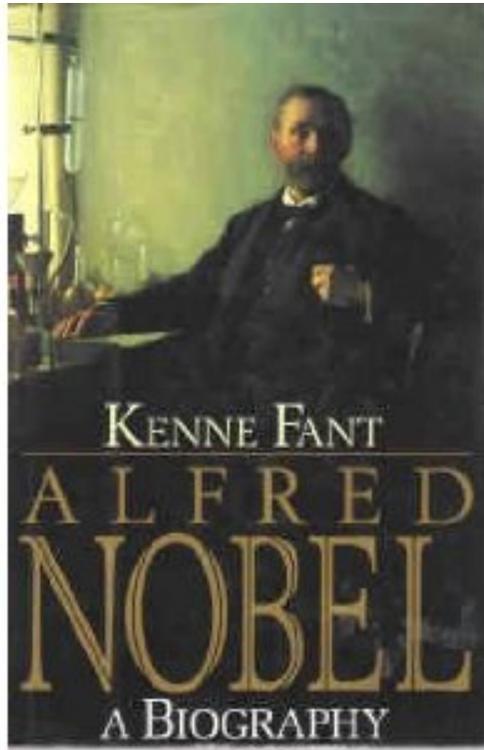
## 発明家、事業家

ノーベル賞は、ダイナマイトの発明者として知られるアルフレッド・ノーベルの遺言に従って1901年から始まった世界的な賞である。

幼少時は健康に問題があり、頭痛もちで、陰鬱な性格であったといわれる。

スウェーデン語、フランス語、ロシア語、英語、ドイツ語、イタリア語の話す、読む、書く、ができた。

文学(戯曲)を志すも、事業家としての生涯を送った。平和と戦争の間で揺れる。本人の意思とは異なり、独身を通す。



憂鬱になりやすい人生  
の不条理を確信した人  
里離れた人間嫌い

From Publishers Weekly

Swedish industrialist and chemist Alfred Nobel (1833-1896), the inventor of dynamite and founder of the prestigious prizes, is seen as **a secluded misanthrope prone to melancholy and convinced of life's absurdities** in this gracefully written biography by Swedish actor/director Fant. Of special interest here are excerpts from the committed bachelor's unpublished letters to his Austrian mistress, a coquettish flower sales clerk named Sofie Hess. Having met her when he was 43 and she 20, Nobel vacillates in the course of their 18-year correspondence between fatherly tenderness, sexual desire and patronizing attempts to remake Sofie into a cultured sophisticate. His lonely life was punctuated by tragedies. His brother Emil, a lab worker, died in an explosion and his unscrupulous French business partner, Paul Barbe, killed himself. But perhaps the greatest tragedy was that this shy pacifistic introvert believed that the creation of weapons of mass annihilation would make wars impossible forever.

Copyright 1993 Reed Business Information, Inc.

[http://www.amazon.com/gp/product/product-description/1559702222/ref=dp\\_proddesc\\_0?ie=UTF8&n=283155&s=books](http://www.amazon.com/gp/product/product-description/1559702222/ref=dp_proddesc_0?ie=UTF8&n=283155&s=books)

## アルフレッド・ノーベルの年表(その1)

西暦	歳	個人	家族	社会	技術	会社	出来事
1831							<b>W.ビックフォード、安全導火線発明</b>
1833	0						ストックホルム(スウェーデン)に生まれる 父イマニュエルは発明家、建築家 2人の兄がいた
1837	4						父は破産してフィンランドへ 母が牛乳、野菜を売って生活
1841	8						ストックホルム市内のジャコブス小学校に入る (病弱、憂鬱症、偏頭痛持ち、学業優秀) 父はペテルブルグ(ロシア)で実業家となる
1842	9						一家でニコライ1世統治下のペテルブルグに移る
1843	10						2人の家庭教師に化学と歴史を教わる 末弟エミール誕生 <b>父はロシア軍に納入の地雷工場を経営(硫酸が起爆剤)</b>
1845	12						<b>スイスのシェンバインが無煙火薬を発明</b>
1847	14						<b>イタリアのソブレロがニトログリセリンを発明</b>
1849	16						<b>手当たり次第に文学書を読む</b>

世界の伝記34 ノーベル 大野進著(きょうせい、昭和55年)の巻末の年表に加筆

## アルフレッド・ノーベルの年表(その2)

西暦	歳	個人	家族	社会	技術	会社	出来事
1850	17						ロシアでアレキサンドラに求婚するが実らず 見分を広めるために、アメリカ、ヨーロッパへ遊学 (パリでペルーズ教授の綿火薬爆発実験を見る)
1851	18						アメリカでデュポンの火薬工場(黒色火薬)を見学 鉱山用、建設用の火薬が不足、爆薬の将来性を確信
1852	19						イギリスの詩人シェリーに傾倒し詩人を目指す が、ペテルブルグに戻り父の向上を手伝う
1853	20						クリミア戦争勃発。軍需品受注で活況を呈す。
1854	21						イギリスとフランス(連合軍)が参戦
1855	22						父の会社の従業員数が1000名に 初めてニトログリセリンに接する (爆破力は強力であるが、爆発をコントロールできない)
1856	23						クリミア戦争終結(ロシア敗戦)で社業が悪くなる (ロシア大砲の着弾距離は連合軍の半分以下)
1857	24						工場規模を縮小、製品は蒸気機関だけに
1858	25						ロンドン、パリの銀行から融資を受けられず

### アルフレッド・ノーベルの年表(その3)

西暦	歳	個人	家族	社会	技術	会社	出来事
1859	26						会社が破産。2人の兄とともに社の回復に力を注ぐ <b>化学の研究に没頭、油状ニトログリセリン量産法を開発</b> 両親と末弟のエミールはスウェーデンに帰る
1861	28						パリの動産銀行から10万フランの融資を受ける (ニトログリセリン製造の資金となる)
1863	30						父の要請でスウェーデンに帰る <b>ニトログリセリンの起爆方法を確立する(雷管で特許)</b> ノーベル式ニトログリセリン製造方法の特許を取る
1864	31						ノーベル式ニトログリセリン(液状)の量産に入る ニトログリセリン工場爆発。末弟エミールら5人が死亡 (この爆発は父によると原料の精製時に起こったと) 父は脳卒中の発作に倒れる
1865	32						実業家スミットの資金援助でスウェーデンに工場を新設 6月、ドイツに進出
1866	33						3か月間、アメリカに滞在 世界各地で爆発事故発生 <b>ダイナマイトを発明する</b> (ドイツ、イギリス、スウェーデン、北アメリカで特許を取る) アメリカでの製造はデュポン(黒色火薬)により阻止される アメリカでの特許はジャイアント・パウダーに売却

## アルフレッド・ノーベルの年表(その4)

西暦	歳	個人	家族	社会	技術	会社	出来事
1868	35						スウェーデン王立科学アカデミーより金メダルを受ける フランスに住まいを移す
1869	36						イギリスがニトログリセリンの輸入や製造を厳しく制限 フランスもダイナマイトの製造を禁止
1870	37						<b>普仏戦争が勃発</b> 。プロシア軍がダイナマイトを使用 フランスの実業家ポール・バルブ(32歳)とフランスに工場を作る スウェーデン工場がまたも爆発
1871	38						イギリスに工場を新設 <b>普仏戦争終結</b> (フランス敗戦) ダイナマイト製造がフランスで禁止になり工場を閉鎖
1872	39						父イマニュエル死亡
1873	40						ここ3年で9つの国に10工場を建設(うち2つはアメリカ) 長男ロベルトがロシア・バクーの石油採掘権を買う
1875	42						<b>ゼラチン爆薬の開発に成功</b> フランス政府がダイナマイトの生産を許可 (後の10年間で儲けは10万フラン) 次兄のリュドビグが石油事業への参加を勧める
1876	43						<b>ベルタ・ヤンスキーを秘書として採用</b> <b>秋にはゾフィ・ヘスと知り合う</b>

## アルフレッド・ノーベルの年表(その5)

西暦	歳	個人	家族	社会	技術	会社	出来事
1878	45						ノーベル兄弟ナフサ会社がロシアにできる
1879	46						<b>無煙火薬の開発に着手</b>
1883	50						ノーベル兄弟ナフサ会社の重役に就任
1885	52						アメリカにある会社はすべて売り払う
1886	53						イギリスードイツ系、ラテン諸国系のダイナマイトトラストを結成
1887	54						<b>無煙火薬バリスタイトを完成</b>
1888	55						次兄リュドビグ死亡 コルダイト(イギリスの発明)をバリスタイトの特許係争で告訴するも、後に敗訴
1889	56						母アンドリエッテ死亡
1890	57						フランス政府、バリスタイトの生産を禁止する 共同経営者ポール・バルブ自殺。彼の汚職発覚で窮地に
1891	58						フランスからイタリアに住まいを移す <b>ゾフィーと別れる</b>
1892	59						<b>ズットナー夫人とスイスで会う</b> 第4回世界平和会議を傍聴

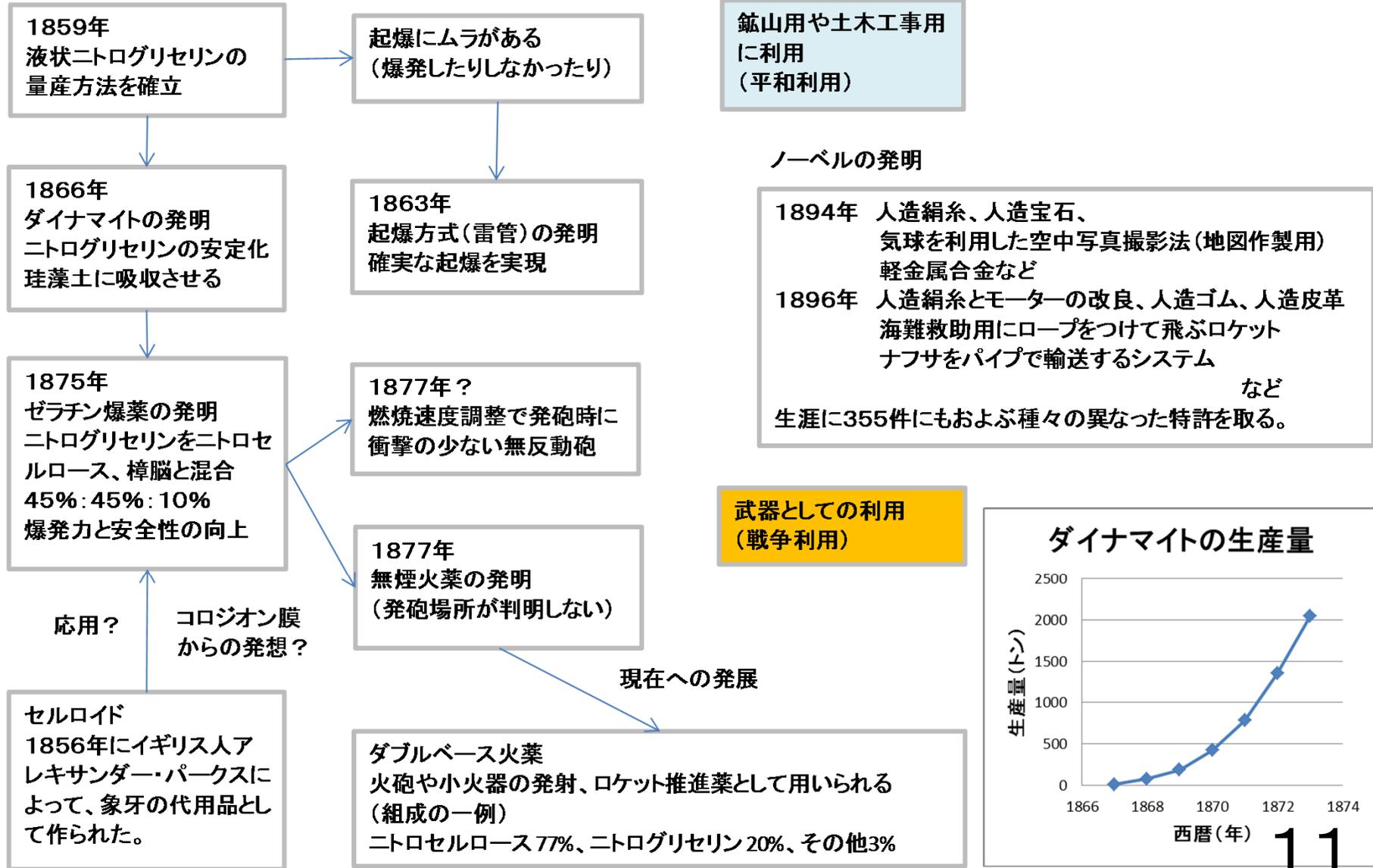
## アルフレッド・ノーベルの年表(その6)

西暦	歳	個人	家族	社会	技術	会社	出来事
1893	60						ノーベル平和賞の基本案をズットナー夫人に知らせる 後に遺言執行人となるラグナール・ソールマンを実験助手に雇う (ソールマンは23歳のスウェーデン人)
1894	61						人造繊維、合成ゴム、塗料、人造宝石などの特許を取る
1895	62						健康状態悪化する。パリで遺言状を作成
1896	63						長兄ペトロ死亡 急性狭心症で絶対安静を言い渡される 長編戯曲「メネシス」をパリで書く 12月10日、サン・レモ(イタリア)で脳溢血のため死去 ソールマン(30歳)、リリエクビストの2人が遺言執行人となる
1898							ノーベルの遺族、遺産相続を断念
1900							ノーベル財団設立
1901							最初のノーベル賞が授与される

# ノーベルを取り巻く技術と文学

西暦 (年)	戦争	発明		文学
		世界	ノーベル	
1830		1831安全導火線		
1840 (7歳)		1845無煙火薬 1847ニトログリセリン		1849文学書多読 1852詩人をめざす
1850 (17歳)	1853クリミア戦争勃発 1856戦争終結		1859油状ニトログリセリン 量産方法を開発	
1860 (27歳)	1861米南北戦争勃発 1865戦争終結 (黒色火薬使用)		1863ニトログリセリンの 起爆方法を確立 1866ダイナイトを発明	1861 In Brightest Africa 1862 The Sisters
1870 (37歳)	1870普仏戦争勃発 1871戦争終結		1875ゼラチン爆薬の 発明	
1880 (47歳)			1887無煙火薬 ハリストイトを発明	
1890 (57歳)				1895 The Patent Bacillus 1896 Nemesis

# ノーベル 発明の系譜



[http://nobelprize.org/alfred\\_nobel/biographical/articles/erlandsson/](http://nobelprize.org/alfred_nobel/biographical/articles/erlandsson/)

## Alfred Nobel and Literature

After his death **he left a private library of over 1500 volumes, mostly fiction in the original language**, works by the great writers of the 19th century, but also the classics and works by philosophers, theologians, historians and other scientists.

He also left a voluminous collection of letters, a handful of poems he himself had written in his youth and some early drafts of analytical novels, ***I ljusaste Afrika (In Brightest Africa, 1861)*** and ***Systrarna (The Sisters, 1862)***. Towards the end of his life, when his inventions and business activities left him more time, he drafted the outline of a satirical comedy, ***The Patent Bacillus (1895)***, and published a tragedy, ***Nemesis (1896)***.

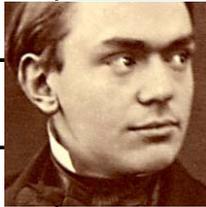
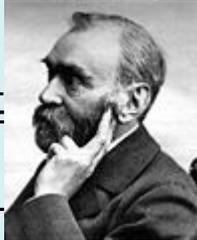
**Nemesis**. 100 copies were published at his own expense in Paris a few weeks after his death, but all copies - bar three - were destroyed in accordance with his family's wishes.

the poem “You say I am a riddle”, which Nobel wrote during his first visit to Paris in **1851**, **謎**

[http://www.weblio.jp/content/%E3%83%8D%E3%83%A1%E3%82%B7%E3%82%B9\\_\(%E6%88%AF%E6%9B%B2\)](http://www.weblio.jp/content/%E3%83%8D%E3%83%A1%E3%82%B7%E3%82%B9_(%E6%88%AF%E6%9B%B2))

『**ネメシス**』(**Nemesis**)は、ノーベル賞を遺したアルフレッド・ノーベル作の4幕の**悲劇**。韻文で書かれている。亡くなる直前に書かれ、死の床にある間に印刷された。しかし、ノーベルの死後、印刷物は3部を残して破棄された。現存する版(スウェーデン語とエスペラント語)は、2003年にスウェーデンで出版されたもので、エスペラント版からスロベニア語版にも翻訳された。  
(Wikipediaより)

## ノーベルに関係する人々

西暦 (年)	父 イマニユエル ノーベル	母 アントリエッテ ノーベル	長男 ペトロ ノーベル	次男 リュドビク ノーベル	三男 アルフレッド ノーベル	四男 エミール ノーベル	共同経営 ポール バルブ	女性1 アレキサンドラ	女性2 ベルタ ヤンスキー	女性3 ゾフィー ヘス
1830									後に ズットナー夫人	
1840 (7歳)						1843誕生				
1850 (17歳)								1850失恋		
1860 (27歳)						1864死亡				
1870 (37歳)	1872死亡			1875 バクーの 石油事業に			1870 共同経営		1876秘書	1876 知合う
1880 (47歳)		1889死亡							1887 手紙来る	
1890 (57歳)			1896死亡		1896死亡		1890死亡			1891 別れる

備考

父は発明家。黒色火薬の起爆方法の開発、ベニヤ板の発明など  
 次男はバクーの石油事業で巨万の富を築く。この会社は後にロシアに国有化される。  
 ポール・バルブは社会的な不正行為、および会社資本の流用が発覚して自殺  
 ベルタはノーベルとの親交を通して、ノーベル賞の制定に影響を与えた  
 ゾフィーはノーベルより天文学的な金銭を引き出した



<http://ameblo.jp/asongotoh/entry-10057370799.html>

出典は、トレビの泉

## 15年も続いたゾフィー・ヘスとの不似合いな関係

ノーベルが死んだ後ゾフィーは、ノーベルから貰った216通のラブレターと写真を遺言執行人に法外な値段で売りつけ巨万の富を手に入れたんです。ノーベルは15年間 ゾフィーと交際していたが**ゾフィーが勝手気ままに使った額は15年間で約225億円以上。買い与えたパリの家約2億3000万円 別れた後も1年間で約15億円。5年後に亡くなるまで約75億円。**

**ノーベルがゾフィーに払った金額は合計約302億円以上にもなる。**



**ノーベル基金がゾフィーに負けた！**

Wikipediaより

Nobel's will gave 31,225,000 Swedish kronor (equivalent to about 1.8 billion kronor or **250 million US dollars in 2008**) to fund the prizes.

No.447 ノーベル賞が設立されたのはノーベルが若い女に騙されたことがきっかけ(番組評価 86/100へえ)

**アルフレッド・ノーベル**(1833~1896)は1886年に**ダイナマイト**を発明して巨万の富を得たスウェーデンの化学者です。ノーベル賞はノーベルの遺言に基づいて創設されました。「物理学」「化学」「生理学・医学」「平和」「文学」「経済学」の研究者に贈られるもっとも権威のある賞です。このことはノーベルの遺言執行人の1人ソールマンが書いた「アルフレッド・ノーベルの遺産 ノーベル賞の背後の物語」に書かれています。1876年当時**43歳のノーベル**は、オーストリアのウィーンで**20歳の花売り、ゾフィー・ヘス**に会い、その美しさの虜になりました。ノーベルはゾフィーを自宅にこっそり呼び寄せ、**上流階級の知性と教養を教えました**。しかし、ゾフィーは贅沢な生活を覚えてしまってどんどんわがままな女になっていきました。それでもゾフィーを愛していたノーベルは世間に知られないよう**15年間もそのまゝの関係を続けました**。...ここで、普通ならおかしいと思いませんか？ そんな中ゾフィーはノーベルが旅で不在の間複数の男と浮気し、子どもまで作ってしまいます。さすがのノーベルもゾフィーの妊娠を知り、やっと別れる決心をしました。...遅すぎると思いませんか？ しかしゾフィーは「2人の交際の事実を公表する」と、これまでのノーベルとの生活を書いた日記をネタにノーベルを脅迫し、延々と大金をもらい続けました。**ゾフィーとの関係を反省したノーベルは財産を有意義に使うべく**、1895年にノーベル賞設立の遺言を書いて他界します。その後、この遺言をもとに1901年ノーベル賞が設立されました。ノーベルの死後、ゾフィーはノーベルから貰った216通のラブレターと写真を遺言執行人に法外な値段で売りつけ、巨万の富を手に入れました。ノーベルとの15年間の交際中、ゾフィーが勝手気ままに使った額は約225億円以上、買い与えたパリの家は約2億3000万円、別れた後も1年間で約15億円、5年後に亡くなるまで約75億円で、**ノーベルがゾフィーに払った額は合計すると約302億円以上**になります。ノーベルの死後、遺言に基づいてゾフィーは死ぬまで毎年約15億円の年金を貰い続けていました。もらえるものは確実にもらったようだけど、何故ノーベルは早く別れなかったんでしょう？ そんなに23歳の年の差が嫌なら、最初から手を出さなければよかったのに。でも、一度火がついた恋の導火線はなかなか消すことはできなかったようで。ダイナマイト作っただけに。

<http://www.oride.net/trivia/trivia444-450.htm>

## 映画 マイ・フェア・レディ あらすじ

原作『ピグマリオン』(Pygmalion)は、ジョージ・バーナード・ショーによる戯曲。1913年初演。バーナード・ショウ(アイルランド)は1925年、戯曲でノーベル文学賞を受ける。

**イライザ(オードリー・ヘップバーン)は花売り娘だ。**うすら寒い三月の風の中で声をはりあげて売り歩く。ある夜、ヒギンス博士(レックス・ハリソン)に言葉の訛りを指摘されてから、大きく人生が変わった。**博士の家に住み込むことになったのだ。**だが、今までの色々の苦勞よりもっと苦しい難行を強いられた。**何度も同じ言葉を録音するのだ。**博士の家に同居するピカリング大佐は親切で優しい。ある日、イライザの父親ドゥリットル(スタンレー・ハロウェイ)が娘を誘惑されたと勘違いして怒鳴り込んだが、**貴婦人になる修業**をしていると聞いて喜んだ。**それから4カ月。イライザは美しい貴婦人として社交界へデビューした。**アスコット競馬場。イライザの美しさは群を抜き、名うてのプレイボーイ、フレディでさえが彼女につきまといはじめた。陰で彼女を見守る博士とピカリングは気が気ではなかった。彼女の正体がばれたら、貴族侮辱罪で社交界から追放されるだろう。彼女は誰にも気づかれずうまくやっていた。ところが各馬がゴール寸前になって興奮のあまり、つい地金を出してしまった。だが、それもお愛嬌ですんだ。つづく大使館のパーティでは完全なレディになっていた。成功だ。その夜、イライザは博士とピカリングの話を立ち聞きして驚き、怒った。自分は博士の実験台にすぎなかったのだ。思わず邸を飛び出した。**博士は、イライザの不在に淋しさを感じ、彼女を愛する心を意識した。**録音器の訛りの多い声を静かに聞きながら心を痛めていた。ふと、その録音器が止まった。イライザが涙を浮かべて立っていたのだ。博士はとんで行って抱き締めたい気持ちをこらえながら言った。「イライザ。ぼくのスリッパはどこ?」

<http://movie.goo.ne.jp/movies/p8464/story.html>

## ベルタ・ヤンスキー(33歳) 後にズットナー夫人

オーストリアの没落した伯爵家令嬢。後に裕福なズットナー男爵(26歳、数学者)と結婚する。

「武器を捨てよ」は普仏戦争を舞台とした小説で、主人公たちの恋が戦争で引き裂かれる悲劇を描いたもの。

オーストリア平和協会を設立した。

## ズットナー夫人との会話

すべてを破壊する爆薬があれば、どの国も戦争をしなくなるだろう。



ズットナー夫人への最後の手紙(1893年)

平和促進について、私は次のような結論に達しました。財産の一部を、国際平和賞のために贈りたいと思います。男女の別なく、平和実現に大きな力を発揮した人を5年に1度ずつ表彰するのです。賞の授与期間は30年とします。————この間に世界を何とかしなければ、我々はもう一度野蛮時代に逆戻りですから。私がこの賞を考えたのは、各国が共同して敵にあたる。という手段が実現するように祈ってのことです。

これが、ノーベル平和賞や国際連盟、国際連合の基礎となった案です。

## ノーベル賞

分野	選考	授賞	授賞式
物理学賞	スウェーデン王立アカデミー	1901年～	スウェーデン・ストックホルム
化学賞	スウェーデン王立アカデミー	1901年～	スウェーデン・ストックホルム
生理学・医学賞	カロリンスカ研究所	1901年～	スウェーデン・ストックホルム
文学賞	スウェーデン・アカデミー	1901年～	スウェーデン・ストックホルム
平和賞	ノルウェイ・ノーベル委員会	1901年～	ノルウェー・オスロ
経済学賞	スウェーデン王立アカデミー	1969年～	スウェーデン・ストックホルム

※受賞者が自然人の場合、10月の受賞者発表時点で生存していること

※授賞式はノーベルの命日である12月10日

※経済学賞は正式名称を「アルフレッド・ノーベルを記念した経済学におけるスウェーデン国立銀行賞」という

3人まで同時受賞することができる。  
文学賞は例外で1人。  
平和賞のみ団体の受賞が認められる。

(ノーベル賞、Wikipediaより)